

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 <http://www.higurashi.net/> 第0079号
護國青年會議機関紙 <http://www.gokoku.net/> 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成21年3月20日

被災者に夢と希望を与え賜うた 大震災の詔勅

16日午後、天皇陛下は、東日本巨大地震の被災者、救援活動を続ける人々、そして国民に向けてビデオでお気持ちを述べられた。陛下がビデオでお気持ちを公表されるのは初めてのことで極めて異例なことである。また皇居や天皇皇后両陛下のお住まいである御所では「停電に伴うさまざまな困難を実施されている地域の人々と共に、苦難を分かち合いたい」という陛下のお気持ちから、計画停電に合わせた時間帯にブレーカーを落としているという。常に国民のことを思い、国民とともに歩んで来られた陛下のお言葉が、どれだけ多くの被災者に夢と希望を与え賜うたか筆舌に尽くしがたいことである。天皇陛下の有り難いお言葉の全文を掲載した。

編集人・戸出蒼流

この度の東北地方太平洋沖地震は、マグニチュード9.0という例を見ない規模の巨大地震であり、被災地の悲惨な状況に深く心を痛めています。地震や津波による死者の数は、目を追って増加し、犠牲者が何人になるのかも分かりません。一人でも多くの人の無事が確認されることを願っています。また現在、原子力発電所の状況が予断を許さぬものであることを深く案じ、関係者の尽力により事態のさらなる悪化が回避されることを切に願っています。

現在、国を挙げての救援活動が進められていますが、厳しい寒さの中で多くの人々が、食糧、飲料水、燃料などの不足により、極めて苦しい避難生活を余儀なくされています。その速やかな救済のために全力を挙げることににより、被災者の状況が少しでも好転し、人々の復興への希望につながっていくことを心から願わずにはいられません。そして何にも増して、この大災害

を生き抜き、被災者としての自らを励ましつつ、これからの日々を生きようとしている人々の雄々しさに深く胸を打たれています。

自衛隊、警察、消防、海上保安庁を始めとする国や地方自治体の人々、諸外国から救援のために来日した人々、国内のさまざまな救援組織に属する人々が、余震の続く危険な状況の中で、日夜救援活動を進めている努力に感謝し、その労を深くねぎらいたく思います。

今回、世界各国の元首から相次いでお見舞いの電報が届き、その多くに各国国民の気持ち

が被災者とともにあると添えられています。これが被災者とともにあると添えられています。この深い悲しみの中で、日本人が取り乱すことなく助け合い、秩序ある対応を示していることに触れた論調も多いと聞いています。

被災者のこれからの苦難の日々を、私たち皆が、さまざまな形で少しでも多く分かち合っています。これが大切であるうと思えます。被災した人々が決して希望を捨てることなく、身体(からだ)を大切に明日からの日々を生き抜いてくれるよう、また国民一人一人が、被災した各地域の上にこれからも長く心を寄せ、被災者と共にそれぞれの地域の復興の道程を見守り続けて行くことを心より願っています。



危機管理能力ゼロの無能政権が招く

国家の危機

しきしまの大和心のをよしきは
ことある時ぞあらはれにける

明治天皇御製

我が祖先は肇国以来、歴代天皇の大御心を奉り、熱き誠の心を持ってお仕え申してきた。国家存亡の危機には、大和心を発露し、未曾有の国難を乗り越えて来た。明治天皇は、我らの祖先の決して屈しない精神から、大和心の雄々しさは、平時は表面に現れないが、一朝事ある時には決然と現れるものだと言まれている。

平成の御代になって23年、日本は史上最大級の災害に見舞われた。まさに未曾有の国難であり、その被害は計り知れないものがある。風光明媚なりアス式の海や緑豊かなみちのくの大地は、見るも無残に破壊され、全てを失い、涙が流れて流れて流れて流れ尽きた人々の目に移ったのは、もう会うことができない掛替えのない家族や愛する人の面影だったのだろうか、幼い頃走り回った野山や沈む夕日が美しい海辺の風景だったのだろうか、確かなことは人々の目は、遙かに遠い復興への道を見つめているということだ。

東電に責任転嫁する総理大臣
悲しみにくれないながらも必死

に立ち直ろうとする被災者に対して、日本政府は余りにも無能で危機管理能力は皆無に等しい。100年に1回あるかないかの国難に対して市民運動上がりの男が総指揮をとっている。この男は、不都合なことが起こると責任転嫁し、権力を笠に着て弱者を苦しめる。また情緒不安定が故に独りよがりの思いつきで周囲を困惑させている。

東電職員が命を賭して原発を守ろうとしている時、狂乱状態の菅は、15日早朝東電本社に乗り込み「良く聞けよ、撤退したら東電は100%潰れるぞ」と居並ぶ幹部を恫喝した。怒声は会議室の外まで響き渡った。菅は、扉の外に報道陣が詰めていることを承知の上で「一体どうなっているんだ。アンタたちしかいないんだ。覚悟を決めろ」と怒鳴りまくった。相手が反論できず立場がないと分かると笠に掛かる様は弱者虐待以外の何物でもない。

しかし間接的とはいえこの無能すぎる男を宰相に選んできたのは民主党に投票した国民だ。民主党は天災を理由に地方選を延期して失地回復を企んでいる。この期に及んで党利党略私利私欲のために奔走する民主党に投票した国民は、悔い改めて次の選挙に臨んでほしい。

訳が分らぬバカ女2人の起用

折も折、菅は蓮舫を節電計画担当大臣、あの辻元清美をボランティア担当の首相補佐官に任命した。辻元は平成7年に起きた阪神淡路大震災の際、ボランティアと称し地震発生翌日現地入りして「自衛隊は違憲です。配給物は受け取らないでください」という内容のビラを配布し、被災者の不安を煽ったことがある。津波による損壊が著しい仙台空港に建設資材を満載した米軍の大型輸送機が、緊急着陸して作業を開始した結果、復旧作業は本格化し、仙台空港は翌18日から使用可能となり、救援活動に一条の光が差し込んだ。ところが何を血迷ったのか辻元は「事前協議なしの着陸は安全を無視した行為だ」と米軍に抗議した。抗議することは勝手だが、日本政府の一員だということを忘れるな。足を引く張る暇があるならピースボートの仲間と乱交パーティでもやっていればいい。国民はオマエなど端から信用していないのだから…。

辻元に負けず劣らずのバカ女は蓮舫だ。元タレントで内閣府特命担当大臣でもある蓮舫は、ツイッターで「皆様、余震に充分な備えをお願いします。落下物にお気をつけください」と発言し、ユーザーから袋だたきにあっている。それはそうだがユーザーが怒るのは無理もない話だ。蓮舫は「いつ起こるか分らない災害に財源を使うのは無駄なことだ」と、麻生内閣が計上していた4000億円の防災予算を悉く削減している。

石油と塩の備蓄は、仕分けパフォーマンスの生贄となりカットされ、雪国の人には死活問題である除雪費用は削減、耐震補強工事費と学校耐震化予算は「緊急性が無い」とされ高校無償化の財源となり、災害対策予備費と地震再保険特別会計も「緊急性が無い」とされ前者は生活保護、後者は子ども手当での財源に振り分けられてしまった。

蓮舫は己自身のアピールのために技術開発の資金を削り国家の発展を阻害し、防災関連予算を削減し人の命を見殺しにしたのだ。蓮舫が削減した4000億でどれだけ多くの人が救われるのか。この緊急時にこのバカ女二人の起用とは、ブラックジョークとしか言いようがない。